

丸亀市協働のまちづくりに関する市民活動団体アンケート報告書（概要）

I 調査概要

(1) 調査目的

「第2次丸亀市協働推進計画（仮称）」（計画期間：令和6年度～10年度）を策定するに当たり、協働の担い手となる市民活動団体の協働に関する現状と認識、課題などを把握し、今後の市の施策や事業を考えるうえでの基礎資料とする。

(2) 調査対象

マルタスに登録している市内に事務所を有する市民活動団体、社会福祉協議会が把握している市内のボランティア団体

(3) 実施期間

令和5年5月10日～令和5年5月31日

(4) 実施方法

郵送配布・インターネット回答/郵送回収

(5) 回収結果

配布数…147票、回収数…77票、回収率…52.4%

(6) 質問内容

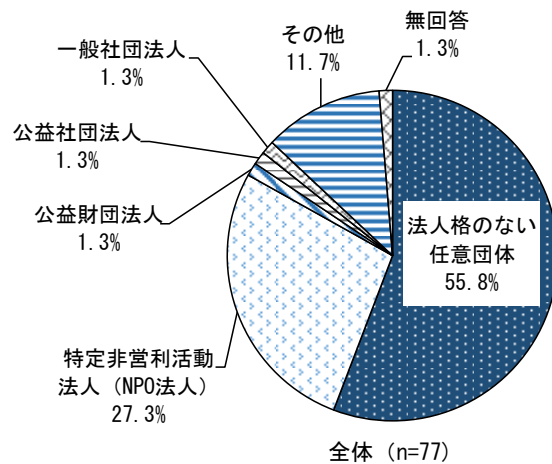
項目	質問内容	
1 団体について	問1	団体の種別
	問2	活動分野
	問3	活動年数
	問4	構成人数
	問5	活動頻度
	問6	主に活動する施設や場所
	問7	情報発信の手段
	問8	活動する中で困っていること
2 市との協働について	問9	以前から「協働」という言葉を知っていたか
	問10	市と協働して事業を行ったことがあるか
	問11	市と協働して良かった点
	問12	市と協働して課題に感じた点
	問13	市との協働についての考え
	問14	協働を必要と思わない理由
3 市以外の団体との協働について	問15	市以外の団体と協働で事業を行ったことがあるか
	問16	事業を行った団体について
	問17	他団体と協働して良かった点
4 市の事業について	問18	ステップアップ補助事業と提案型協働事業の認知状況
5 保険加入について	問19	何らかの保険に加入しているか
	問20	市民活動保険制度について知っているか
	問21	市が市民活動保険制度に加入した場合の影響
6 市民交流活動センター「マルタス」について	問22	マルタスを利用したことがあるか
	問23	マルタスの利用目的
	問24	マルタスの利用頻度
	問25	マルタスに対して今後望む支援
7 自由意見	問26	自由意見

II 調査結果

1 団体について

(1) 団体の種別

団体の種別は、「法人格のない任意団体」が55.8%と最も高く、次いで「特定非営利活動法人(NPO法人)」が27.3%、「公益財団法人」、「公益社団法人」が1.3%となっています。

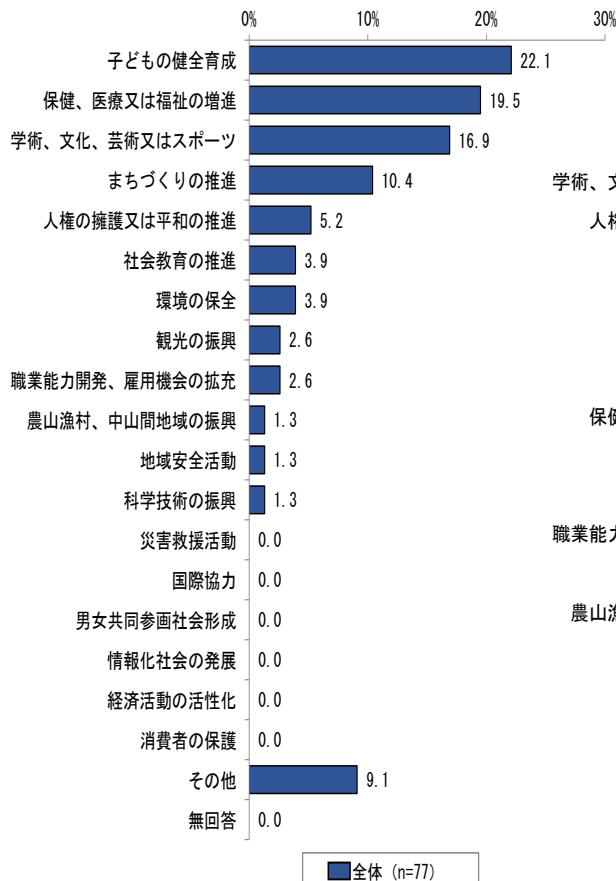


(2) 活動分野

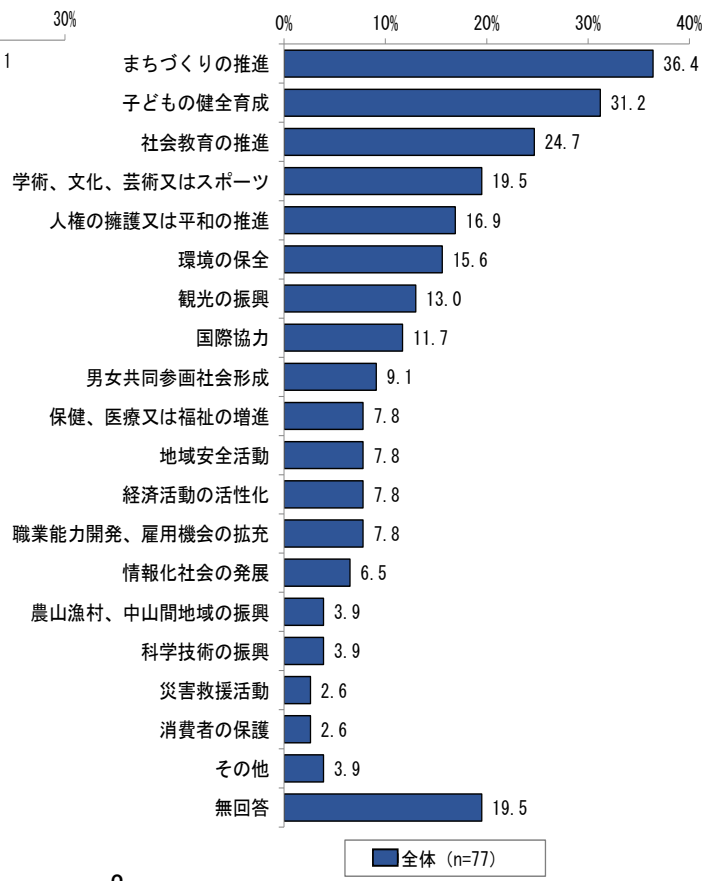
代表的な活動分野は、「子どもの健全育成」が22.1%と最も高く、次いで「保健、医療又は福祉の増進」が19.5%、「学術、文化、芸術又はスポーツ」が16.9%、「まちづくりの推進」が10.4%と続いています。

その他の該当分野は、「まちづくりの推進」が36.4%と最も高く、次いで「子どもの健全育成」が31.2%、「社会教育の推進」が24.7%、「学術、文化、芸術又はスポーツ」が19.5%と続いています。

【代表的な活動分野】

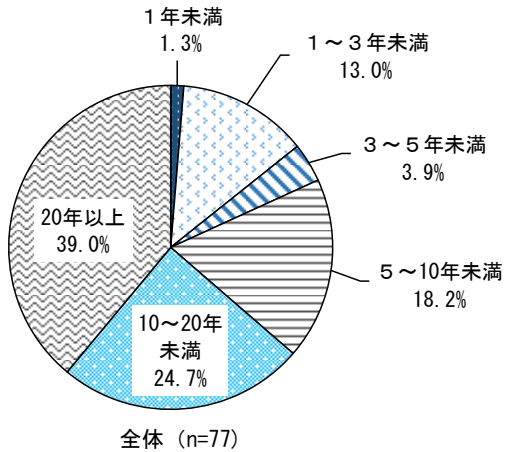


【その他の該当分野】



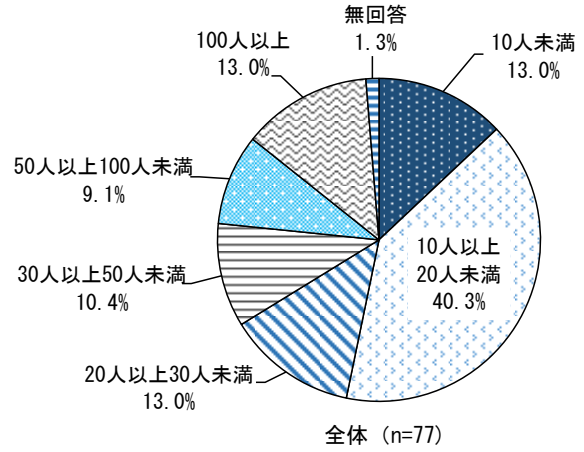
(3) 活動年数

活動年数は、「20年以上」が39.0%と最も高く、次いで「10～20年未満」が24.7%、「5～10年未満」が18.2%、「1～3年未満」が13.0%と続いています。



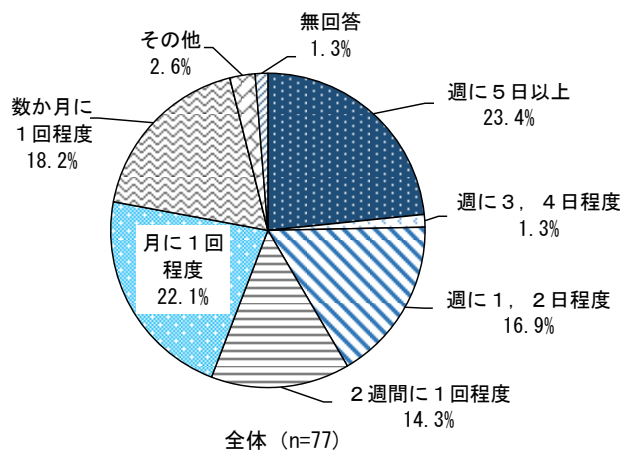
(4) 構成人数

構成人数は、「10人以上20人未満」が40.3%と最も高く、次いで「10人未満」、「20人以上30人未満」、「100人以上」が13.0%と続いています。



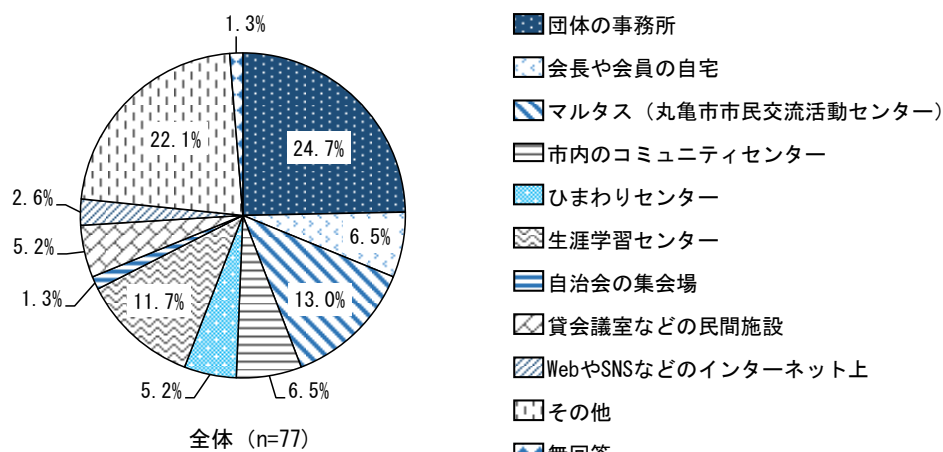
(5) 活動頻度

活動頻度は、「週に5日以上」が23.4%と最も高く、次いで「月に1回程度」が22.1%、「数か月に1回程度」が18.2%、「週に1, 2日程度」が16.9%と続いています。

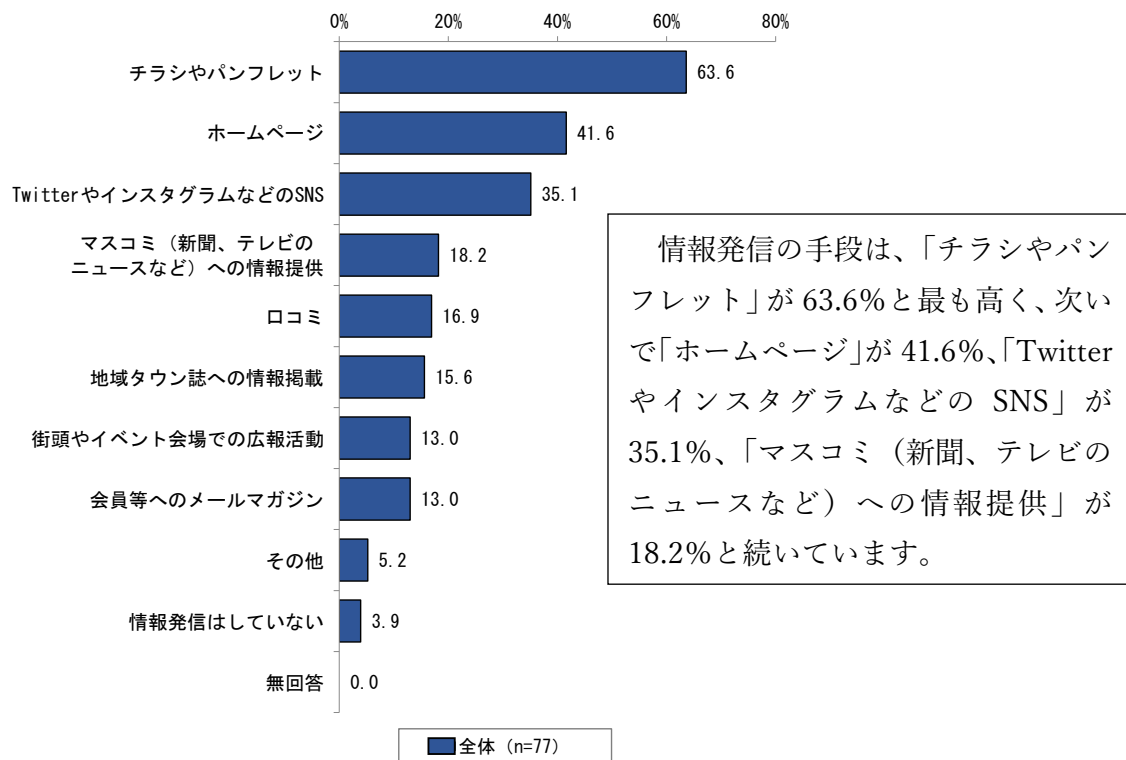


(6) 主に活動する施設や場所

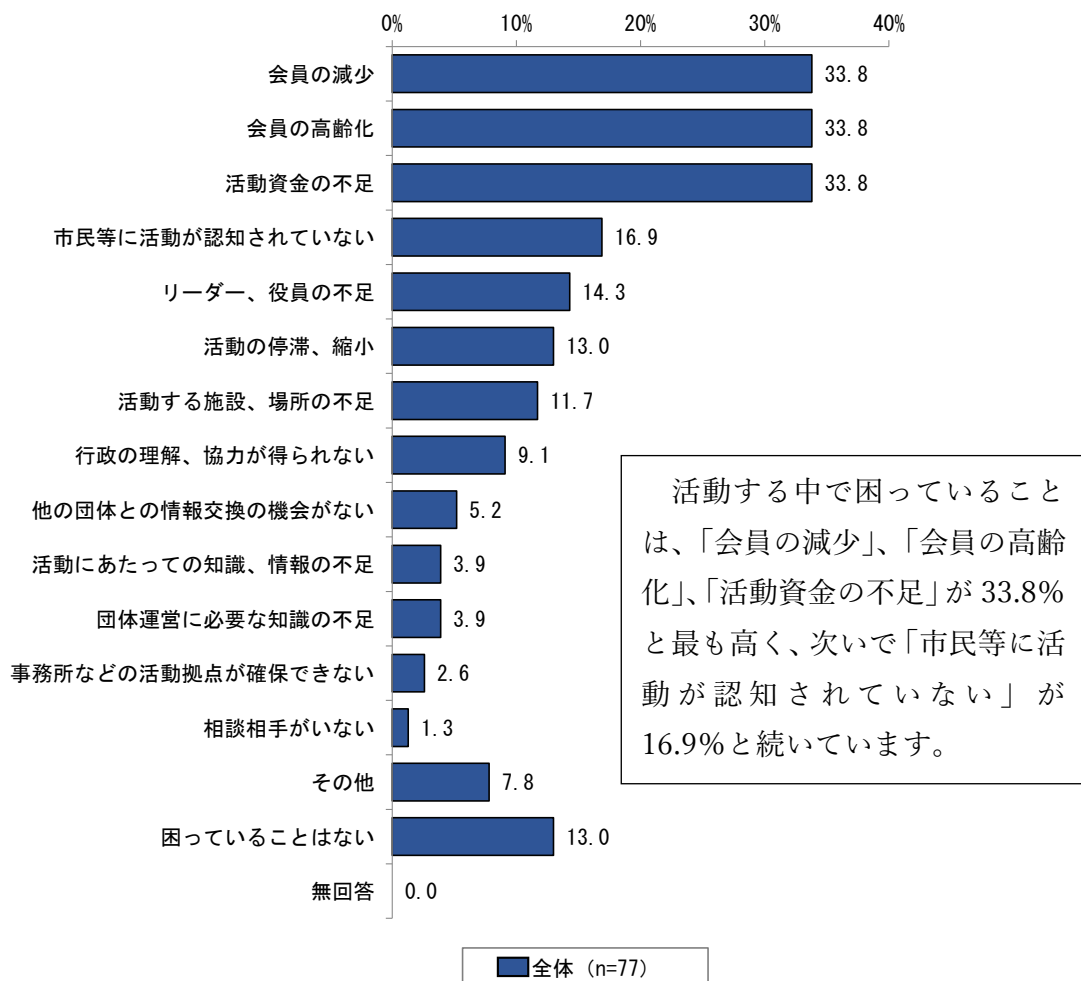
主な活動場所は、「団体の事務所」が24.7%と最も高く、次いで「マルタス（丸亀市市民交流活動センター）」が13.0%、「生涯学習センター」が11.7%、「会長や会員の自宅」が6.5%と続いています。



(7) 情報発信の手段



(8) 活動する中で困っていること



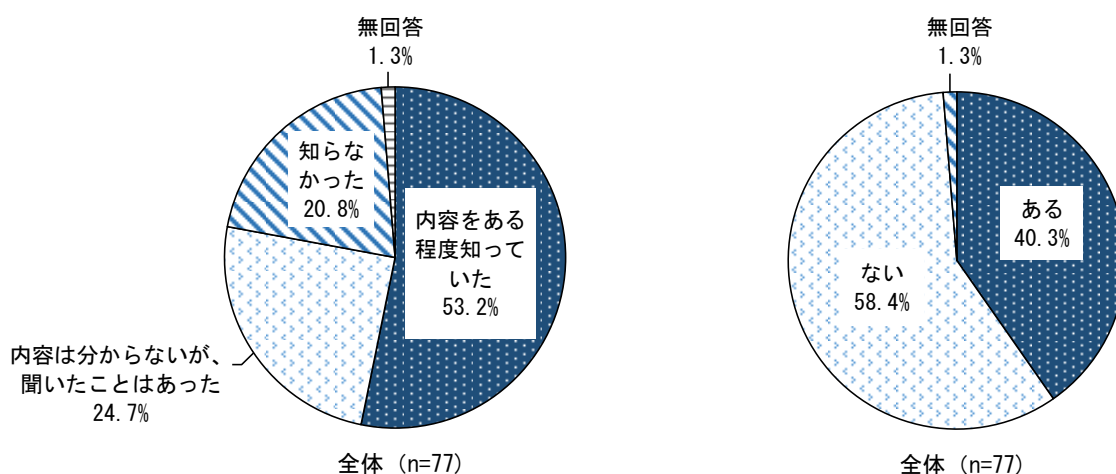
2 市との協働について

アンケート回答以前から「協働」という言葉を知っていたかについては、「内容をある程度知っていた」が 53.2%と半数以上を占め、「内容は分からないが、聞いたことはあった (24.7%)」と合わせると、言葉の認知度は8割近くとなっています。

一方で、市と協働して事業を行ったことがあるかについては、「ある」が 40.3%となっており、「協働」の認知度に比べると低い割合となっています。

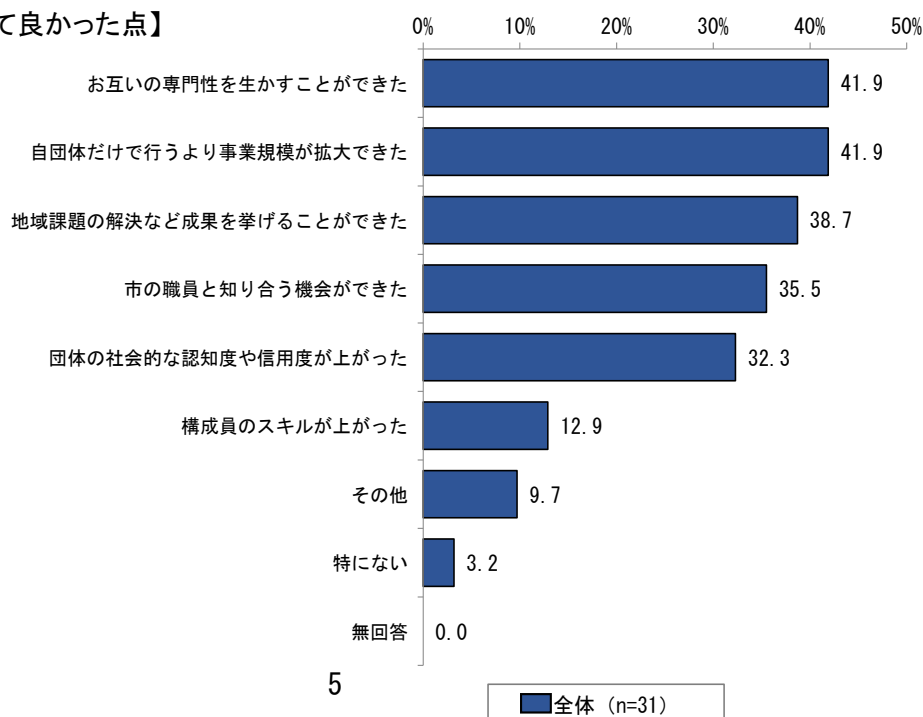
【問 9: 以前から「協働」という言葉を知っていたか】

【問 10: 市と協働して事業を行ったことがあるか】



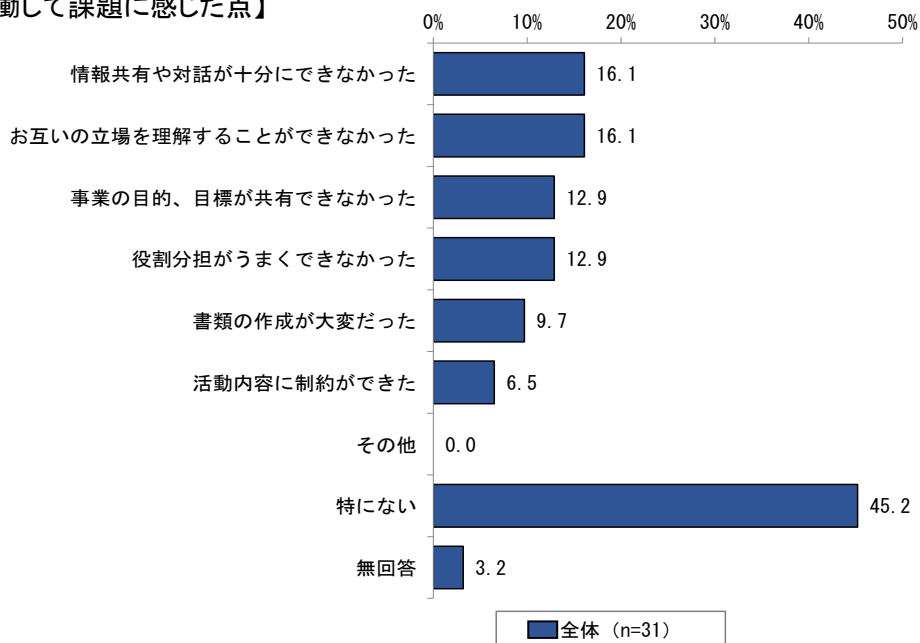
市と協働して良かった点について、「お互いの専門性を生かすことができた (41.9%)」、「自団体だけで行うより事業規模が拡大できた (41.9%)」、「地域課題の解決など成果を挙げることができた (38.7%)」等の回答が多く、反対に「特にない」は 3.2%にとどまっており、協働した団体の多くがメリットを感じていると考えられます。

【問 11: 市と協働して良かった点】



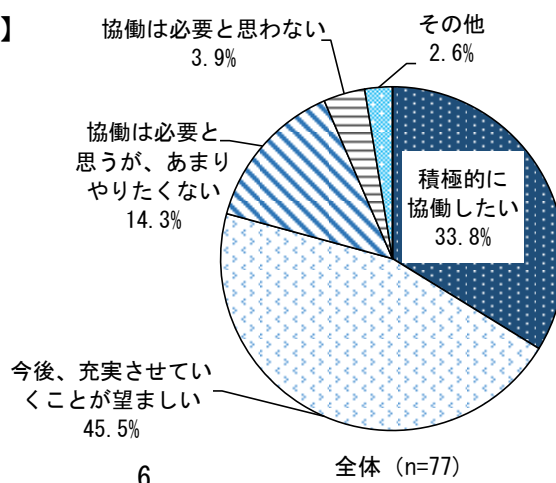
市と協働して課題に感じた点は、「特にない」が45.2%と高くなっていますが、「情報共有や対話が十分にできなかった(16.1%)」、「お互いの立場を理解することができなかった(16.1%)」といったコミュニケーション不足が要因と考えられる課題も挙げられています。協働経験のある団体の声等も活用して協働のメリットを発信すると同時に、協働した際のコミュニケーション不足という課題を改善していく必要があると考えられます。

【問 12: 市と協働して課題に感じた点】



市との協働についての考えは、「今後、充実させていくことが望ましい」が45.5%と最も高く、「積極的に協働したい(33.8%)」と合わせると、約8割の団体が市との協働に前向きな考えを持っていることがわかります。「協働は必要と思わない」と回答した団体は3団体のみでしたが、その理由として「活動内容に制約を受けると思うから」、「補助金等の対象経費が限られており、使い勝手が悪いと思うから」等が挙げられており、市との協働に前向きな団体に働きかけると同時に、協働する際に団体の活動や考えを妨げるというイメージを払拭していく必要があると考えられます。

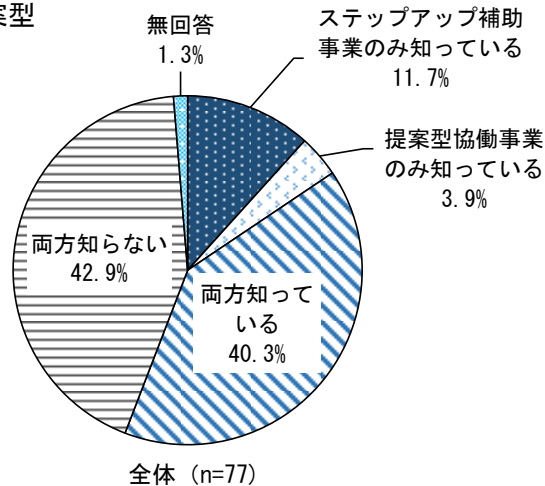
【問 13: 市との協働についての考え】



3 市の事業について

市の事業であるステップアップ補助事業と提案型協働事業の認知状況については、「両方知らない」が42.9%と最も高く、次いで「両方知っている」が40.3%、「ステップアップ補助事業のみ知っている」が11.7%、「提案型協働事業のみ知っている」が3.9%となっています。

【問 18: ステップアップ補助事業と提案型協働事業の認知状況】

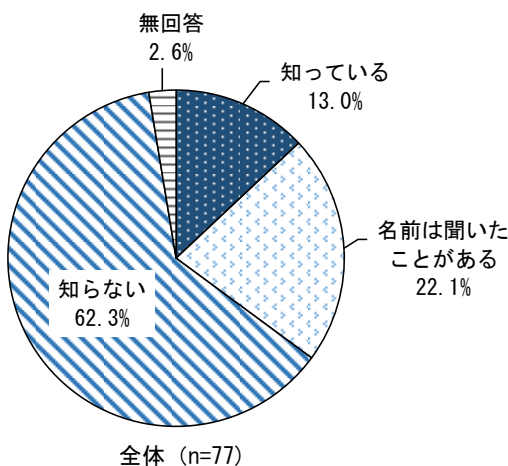


4 保険加入について

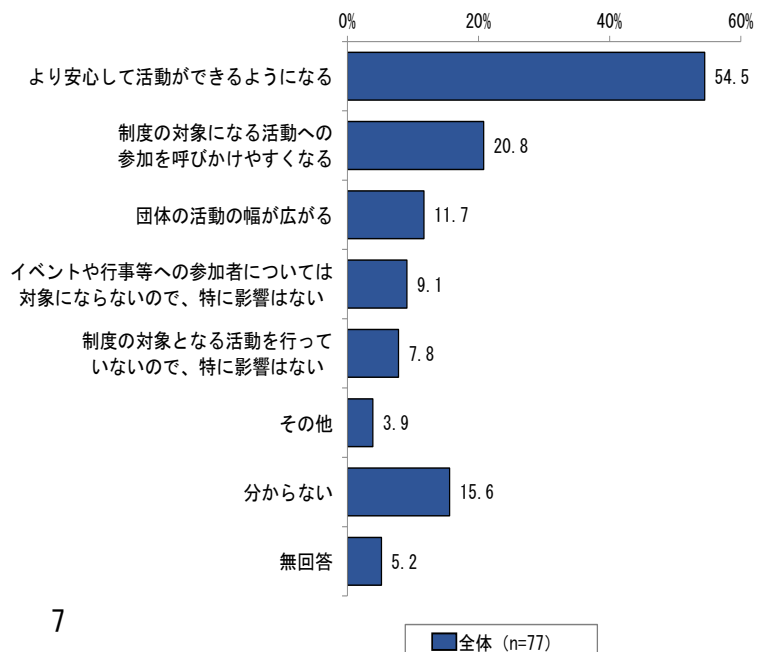
市民活動保険制度については、「知らない」が62.3%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が22.1%、「知っている」が13.0%となっています。

市が市民活動保険制度に加入した場合の影響については、「より安心して活動ができるようになる」が54.5%と最も高く、次いで「制度の対象になる活動への参加を呼びかけやすくなる」が20.8%と、市民活動にとって良い影響があると考える意見が多くなっています。

【問 20: 市民活動保険制度について知っているか】



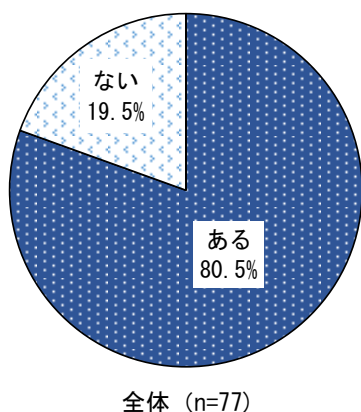
【問 21: 市が市民活動保険制度に加入した場合の影響】



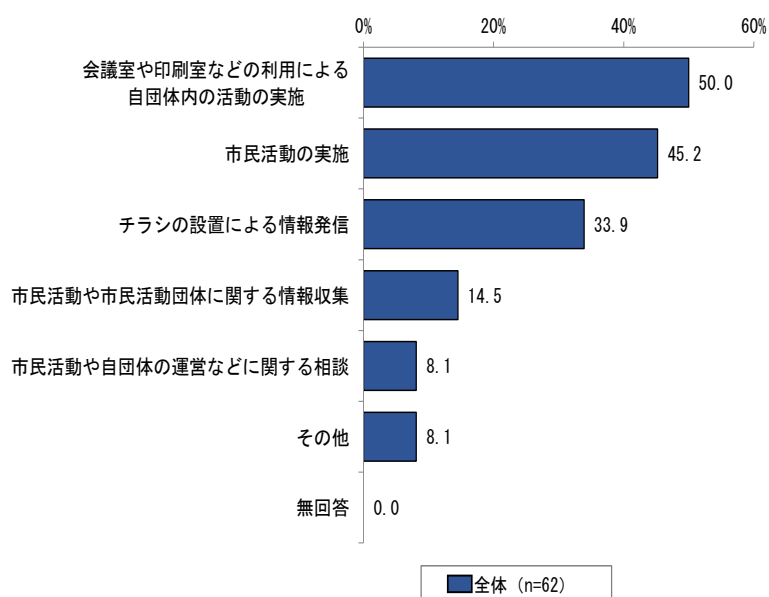
5 市民交流活動センター「マルタス」について

マルタスの利用状況について、「ある」が80.5%となっており、その利用目的としては、「会議室や印刷室などの利用による自団体内の活動の実施（50.0%）」、「市民活動の実施（45.2%）」等が多くなっており、活動の場としての利用が多いと考えられます。

【問 22: マルタスを利用したことがあるか】



【問 23: マルタスの利用目的】



マルタスに対して今後望む支援としても「団体の活動場所の提供（41.6%）」が最も高くなっていますが、次いで「行政とのネットワークづくり（29.9%）」、「市民活動への理解と参加を促すための啓発・情報発信活動（26.0%）」と続いており、活動場所の確保という現在の利用目的を維持しつつ、市との協働や、マルタス利用者に対する市民活動への理解促進の機会づくりが期待されていると考えられます。

【問 25: マルタスに対して今後望む支援】

